

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 33

NO 33

2016・8・19

1 アフリカ豚コレラ（ASP）の感染拡大の阻止を

ー豚、イノシシからの産物をゴミに捨てないことー

ドイツ連邦食料・農業省は、この伝染病・アフリカ豚コレラ（訳注：アフリカ豚コレラウイルスの感染によっておこる。日本では未発生）の拡大を防ぐために、予防措置についての情報を発した。人間にとって危険でないこの病気は、2014年以來バルト諸国とポーランドで発生している。この国々に隣接しているウクライナ、ベラルーシとロシア諸国において、大分前からしばしば発生し、そしてその地で拡大している。

EUのさらなる国々における高い感染圧力によって、この伝染病拡大の危険が常に生じている。最近では、8月初めにポーランドの Wysokie Mazowieckie で、新しく発生した。この地域は、これまでのポーランド発生事例報告から、西に50kmのところにある。連邦農業省は、ポーランドにおけるASPの最近の発生を機に、改めて消費者、家畜飼育者、家畜商人そして狩猟者に、この病気の拡大に関して注意を喚起した。ASPは、人間によって広範囲に伝搬される。特に感染した豚またはイノシシからの産物が、不注意にゴミ処理された場合に（例えば、アウトバーンの駐車場またはピクニック広場で）。

豚とイノシシに、台所ゴミを餌として与えてはならない。これは感染の明確な危険のために、禁止される。狩猟者のために：豚、イノシシからの残物または豚肉産物は、森でイノシシまたは他の動物をおびき寄せるために、使用しないこと。家畜飼育者と家畜商人もまた、豚の取り扱いに際してASPの拡大の危険を意識し、注意対策を遵守すべきである。

確実に健康な群れからの豚購入と、イノシシに対して飼料置き場、在庫飼料（圃場での移動サイロ）からの隔離、各運送の後、車輛の消毒と首尾一貫した清掃のような、簡単なバイオセキュリティが挙げられる。

背 景

ASP に対して豚もイノシシも感染する。感染した豚は、治療法がなくまたワクチンの予防接種も不可能なので、死亡率 100%に達する。豚の予防は、発生豚の群れの処分、空間的な遮断対策によってなされる。豚飼育者とそれに続く経済分野の損失は著しい。なぜならば、長期間の取引停止という封鎖対策が、導入されるからである。第三国からの輸出禁止が、長期間（つまり 1 年以上）になるのは明らかである。

これは、イノシシの個体群が再び ASP フリーになったことが、証明されたときに破棄される。イノシシの ASP 防除は、最終的に群れ減少のための適切な狩猟対策を、講じなければならぬために困難である。イノシシについて過去において、典型的な豚コレラで成功したイノシシの経口からの免疫性付与は、残念ながら感染源としてのイノシシが存在している限りでは、これが用いられない。このため、常に豚への感染危険が直接的、間接的なコンタクトで生ずる。

2 研究者が蚊の生態調査のため市民に「捕獲蚊」の送付を依頼

ードイツに侵入中の外国産蚊の種類、生態を解明中ー

現在の気象状況によって、次世代に蚊のより強い発生が見込まれる。このため、農業研究ライプニッツセンター(ZALR)とフリードリッヒローエフライー研究所(FLI)の科学者が、捕獲した蚊の送付を呼びかけている。2015 年以来、中南米でジカーウイルス(Zika-Virus)が拡大している。このウイルスは蚊を通じて伝染し、そして新生児の奇形との関連をもたらす。この結果は、吸血昆虫が人間と動物への危険を生じ、そして基礎的な研究を早急に、そして今日的に不可欠であることを示している。

ドイツにおいて蚊とその拡大について、僅かな研究データしかない。FLIの科学者は、既に 4 年前からいわゆる「蚊のモニタリング」を導入している。

これはドイツにおいて、どのような種の蚊がいつ、どこで発生しているのかの問題を、追及するものである。現在、他の 5 つの研究所仲間と共同で、ドイツ国内の 148 カ所の現地において、特別な状況でもって蚊を捕獲している。

さらに ZALF との密接な共同研究において、2012 年以来「蚊の地図」の成果多い分担プロジェクトが、進行中である。

蚊の捕獲を呼びかけ

研究者は、ドイツにおいて可能な限り多くの地点で、蚊を捕えることに大きな関心をもっている。そのため、国民に「蚊の捕獲」を呼びかけている。関心をもつ国民は、「蚊の捕獲者」として積極的に捕獲し、捕えた蚊を研究所に送り込むことができる。国民は、どのような蚊の種を捕えたのかの情報を、入手できる。さらにその人は個人的に捕獲場所を、プロジェクト「蚊の地図」のホームページ上に、対話式の捕獲者カードに登録される。捕獲した蚊の送付について、必ず送付申込み用紙に記入すること。このことは、科学者が決定するうえで非常に重要である。これは、「蚊の地図」のインターネットサイト上で、見ることができる。

アジアトラ蚊が南ドイツで越冬

世界規模で約 3,500 の蚊の種が存在する。ドイツにおいては、これまで 50 種が確認されている。グローバル化と気象変動のような要因は、これまで国内に無かった蚊の種の侵入と定着に有利となっている。2015 年 7 月中旬に FLI と ZALF の科学者が、フライブルグ（訳注・ドイツ南部の環境都市として有名）において、アジアトラ蚊の卵、サナギそして成長した個体をみつけた。同じ場所で 2014 年秋に、ドイツにおける最初に侵入してきた蚊の種の繁殖が確認された。この新しい発見は、アジアトラ蚊の侵入と越冬を示している。今後さらなる調査が継続される。

2016・8・20 訳

青森中央学院大学

中川 一徹